



「押し付けない看護とは②」



平素は格別のご最顧にあずかり、誠にありがとうございます。

連日の猛暑で、梅雨はどこへと思っていたら、線状降水帯で水害や竜巻が発生したり、この気象変動には恐怖さえ感じます。当ステーションもスタッフ全員で屋外作業の従業員の熱中症脱水症対策グッズは活躍中です。日焼け予防も欠かせません。最近は暑さで密閉状態の環境になり、新型コロナ(ニンバス)が感染拡大し、病院施設では面会制限になっています。熱中症予防と新型コロナ予防で、安住の地を探すのに大変です。時々換気、うがい手洗い励行、人ごみを避けて、人ごみはマスク着用。水分は小まめに摂り、できる限りタンパク質を摂れる食事メニューなど、出来ることから始めましょう！何処で生活していても自分らしく生きられる環境や世の中でありたい様子を祈念しております。地域で暮らすお一人お一人の療養生活を支えられますように、地域連携の一員として、おもてなしの心に磨きをかけて看護させていただきます。今回は先月に引き続き「押し付けない看護とは②」の事例です。ホームページ『ネットワーク訪問ナースステーション』で検索すると、一番上に出ますので、是非覗きにきてくださいね。(橋井)



Y様60代後半、男性。要介護3 現病歴糖：糖尿病・アルコール性肝障害。既往歴：脳出血で左半身に軽度の麻痺あり。KP妹。生活保護受給者。自宅は持ち家一軒家2階建て、数年前まで母親と同居していたが、母親が他界後は独居。脳出血を患うまではトラックの運転手で、その後は職を転々とし長続きせず。介入は地域包括の紹介で居宅介護支援と訪問介護を導入。この頃は自宅に車があり運転もしていたが、要介護状態になり売却。訪問看護の介入はアルコール摂取の管理と清潔保持で開始。訪問時はソファがベッドでテーブルにはウイスキーと惣菜が散乱。手先は器用でお部屋に色んな物を取り付けたり改造するのが趣味であった。その工具や物品も管理出来ず動線の妨げになっていた。当時のADLは室内移動は伝い歩行で何とかトイレ排泄は出来ていた。通院することが出来ず訪問診療と訪問薬局は導入済みであった。ウイスキー飲酒量は4ℓのニッカウイスキーを2～3日で空にしていた。麻痺やアルコールの影響もあり転倒転落する回数が多くなり緊急訪問も増えた。生活リズムと飲酒量のアセスメントを行い、瓶を4ℓから2ℓに変更したり、違うアルコールに同意の上で変更する等行い、ケアマネジャーと相談し区分変更を実施して、要介護2から要介護3になり、環境整備を行い、特殊寝台を導入。サービスも毎日支援者が訪問出来るようになり、訪問歯科も追加導入した。本人の転倒や転落もかなり少なくなり、ウイスキーも手の届かない位置に置き、1日摂取量を決められる様になった。しかし、状態が安定した頃、訪問歯科診察で歯科医と歯科衛生士さんが訪問時、本人は食事中で、コンビニのおにぎりを口の中に押し込んで、その瞬間誤嚥し窒息状態になり、歯科医も詰まった物を除去したが、救急車で隣の総合病院に緊急搬送されるも意識が戻ることはなく亡くなった。振り返り、利用者に急かせる様な、毎日組むプランが彼の生活リズムに合っていたのか、サービスを提供する側の一方的な思いになっていなかったか、利用者のキャラクターを支援者が理解していたのか、寄り添えていたのか、どのようにすれば事故は防げたのかと色々考えさせられました。厚生労働省の「人口動態統計」によれば、令和4年の統計で窒息による死亡者数は4696人でそのうち65歳以上が9割を占めています。食事指導や食事の提供方法である程度予防でき、ケアチームが一つとなれば考えます。(田中)



神経難病、認知症、精神疾患、がんターミナル、看護師によるリハビリ等を特に得意としております。悩んでいるご利用者に医療相談や訪問看護お試しサービスを無料で行っております。お気軽にお問い合わせください！



Facebook
ございます！

24時間対応



ターミナルケア・お看取りも
対応いたします

訪問地域

世田谷区

松原・代田・代沢・豪徳寺・梅ヶ丘・宮坂・経堂・赤堤

杉並区

永福・和泉・浜田山・下高井戸

その他の地域もぜひご相談ください！

〒156-0043

世田谷区松原2-41-15エテルノ明大前203

ネットワーク訪問ナースステーション

TEL:03-6762-2272

FAX:03-6767-3703

